
lost

桐生 拓人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

lost

【Nコード】

N7653B

【作者名】

桐生 拓人

【あらすじ】

本当に失くしたのはなんだろう。

(前書き)

精神的に痛い…かな？気付かなければ平気です。
初めからアルフォンス君はいません。

l o s t

いつかの夜。

そう。いつかの夜もこうして月を見上げていた。

切り取られた空にぽっかり浮かんだ半月。

何も考えられないほどに愛し合って、睦みあって、幸せを全身で感じた。

なのに目が覚めたときは独りだった。

別に部屋に誰もいないとか仲違いしたとか云うわけではなく、もちろん同じベッドでアイツは寝ていたし、意識が飛ぶまでその逞しい腕で抱き締めてくれてた。

言いたいのはそのいう事じゃない。

目が覚めたときは独り。

この部屋で起きてるのはオレ独り。

この景色を見ているのはオレ独り。

いい様もない孤独感。今頃アルは何してるんだろう。

オレがこうして誰かのぬくもりを感じているとき、アルは独りくらしい宿屋で座ってる。

きつと泣いてる。

「…ないてる…」

ごめん。大佐。俺帰るね。早く帰ってやらなくちゃ。

淋しい淋しいと泣いてる。

いてもたってもいられなくなってオレは家を抜け出した。

次の日。

司令部に訪れたオレ。大佐に怒られた。

「まったく君は何処へ行っていたんだ」

決まってるじゃん。アルフォンスの所だよ。

そう言っただけじゃあちよつと変な顔をして、

「エド。…アルフォンスはもう…」

もうって何だよ。

いないって言うんだろ。

分かってるよ。でも。

「聞こえる。泣いてるんだ」

耳をすませばいつも。

ぎいぎいと鎧を軋ませて泣いてる。

「もう宿に行くのは止しなさい」

「だって、アルが泣いてる」

「いい加減にしなさい！アルフォンスはもういないんだ」

じゃあ、

この声は

誰？

ンス…

ごめんよアルフォ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7653b/>

lost

2010年10月13日19時23分発行